

ぬる

ーズンです。さてあなたはどんな作品をご覧になりたいですか……なんて書いてあって、正月に封切られる映画が紹介してあった。読書のあとが映画、どうも屋内の遊びばかりで、もう少し身体を使う遊びも考えたらよさそうなものだが、風も冷たいし、こんなところでしよう。

※ ロマンチストのあなたに

井 甘いラブ・ストーリーがお望みなら不治の病におかされた薄幸の少女と不遇の作曲家の恋物語「ラスト・コンサート」

井 人生の裏街道を行く男の悲哀をえがく、とても可愛想な物語「ブーメランのように」(アランドロン主演)

※ 愉快になりたいあなたに

一九二〇年代ハリウッドの狂乱ぶりを、犬を主演に皮肉ったもの。

※ コワイ映画が好きなあなたに

井 大ガマでバツサバツサと人間を殺し、あげくのはてにワニに食わせてしまう殺人狂のドラマ。「悪魔の沼」

※ 大アクションがお好みのあなたに

井 昔の映画の焼き直し、どううまく焼き直しているかが見物という「キング・キング」

井 ハリー・キャラハン刑事シリーズ第三弾「ダーティハリイ3」(クリント・イーストウッド主演)

井 キング・キングと真正面から対決する一〇〇〇万ドル映画「

スクリーン」なんて金ピカの本をノゾクと「間もなく正月映画の封切がスタートします。一年中で最も見ごたえのある作品がズラリ並び、ファンにとっては嬉しいシ

井 いまや我がニッポンでも大

流行のリトル・リーグの物語、といつてもスポ根物じゃないのが嬉しい「がんばれ! ベアーズ」

よくもまあ揃ったものの、ただただあきれ悪ガキ、怪物タンばかりのチビッコ野球チームにドジなコーチが入る、というお話。

井 子供物がもう一本。思春期を迎える前の子供たちのチャームングなスケッチという感じの「トリュフォーの思春期」 出演は生

まれたての赤ちゃんから十二才までの少女約二百名。

井 同じやさしさでも、動物に對する若者のやさしさがえがかれるのが、デイズニー映画「遙かなる子熊の森」 実話を基にした、母を亡くした三匹の子熊を育てる若者の物語。

※ 笑いたいあなたに

井 たかが風船ガムに命と名譽をかけて、ニューヨーク・ロサンゼルス間、約五千キロを四〇時間足らずで突っ走るカー・マニアたちの巻き起す大騒動、大珍事。「激走! 五〇〇キロ」

井 「背番号〇〇番大奮戦」は車ならぬラバが大活躍のデイズニー喜劇「フットボール試合の巻」井 スッコケ喜劇がもう一本。「名犬ウオン・トン・トン」は、

カサンドラ・クロス

オリエント急行に「タワーリング・インフェルノ」と「ポセイドン・アドベンチャー」を乗せて爆走する大アクション・サスペンス。

なんて渡辺様子というオバチャ

正月はやつぱり邦画

お正月に映画を見に行くとすると、どうしても日本の映画を選んでしまう。小さい頃、正月の行事に映画を見に行くというのがあった。子供のことゆえ邦画の喜劇物ばかり。今では寅さんシリーズに正月を感じる。さて、七七年の年明けはどのような映画から始まるのか、近代映画という雑誌によって紹介しよう。

「一二月下旬から公開される邦画の正月映画が勢揃いし、快調に撮影が進行している。まず東宝は山口百恵・三浦友和の「春琴抄」と林寛子・草川祐馬の「恋の空中ぶらんこ」とアイドル路線で勝負。なくてはならない松竹の寅さんは「寅次郎純情詩集」で、京マチ子と榎ふみが初登場する。もう一本が「さらば夏の光よ」の郷ひろみ主演の「おとうと」で、ヤングから大人まで独占しようと鼻息があらう。寅さんのライバル桃次郎ことトラック野郎は「天下御免」で四回目の勝負をかける。そして、あつという間に「ちゃんわ、ちゃんわ」と出現して旋風を起こした

日活はエース「嗚呼！ 花の応援団・役者やのオー」でトップをねらっている。

百恵・友和の東宝、寅さんと郷ひろみの松竹、トラック野郎の東映と日活の隊長青田赤道の世紀の対決が大きな話題になっている。君たちはどれを観に行くのかな？」

しかしマア、いかに商売とはいえ、世紀の対決とは恐れいります。煙もたない所に、火でもつけて回ろうという近代映画編集子の心意気の方が映画より面白そう。なんてヒヤカしてばかりもいられない。こちらとも面白おかしくお正月映画の紹介にとりかかろう。

井 幸田文原作の文芸作品「おとうと」

この作品は、昭和三五年に川口浩、岸恵子主演、市川崑監督のメガホンで同年の芸術祭参加作品として映画化されているので、前に見た人は見比べるという楽しみもある。「カメラの前に立った主演の郷ひろみくんは、さすがに緊張がかくせないといった表情。「お正月映画に主演するなんて夢にも考えていませんでしたわ。それだ

けに責任重大で……」緊張の中にもやる気満々」だそう。しかし、可愛い子チャンスターの相手させられる岸田今日子、なんとなくかわいそう。

井 木下サーカスでロケ「恋の空中ぶらんこ」

宝塚で公演中の木下サーカスにロケ。高所恐怖症を自認する林寛子が一八メートルのブランコ台にのぼる。「サーカス一座を舞台にして、そこに生きる人々の悲しみ

や喜びを……」えがいた青春作品。

井 一八作目の「寅次郎純情時集」

△男はつらいよ▽第一八作。京マチ子さん、榎ふみさんの美しい母娘と寅さんの人情あふれるラブストーリーが展開されます。

井 黄金シリーズ「トラック野郎・天下御免」

菅原文太さんふんする一番星の桃次郎とやもめのジョナサンこと愛川欽也さんのふたりをノボセさせるマドンナには由美かおる。山陽・四国路を舞台に、ギンギラトラック笑いと涙を乗せて突っ走。

井 「サチコの幸」・「嗚呼！ 花の応援団・役者やのオー」

この二作品はいづれも週刊漫画アクションに連載されていたものの映画化。花の応援団第二作は宮下順子の出演でようやく面目躍如というところか。(ヤジ馬)

釜 ニ ュ ー ス

新世界の通天閣下にあたらしくストリップ劇場ができた。これはもう、みなさん御存知のことだろうから詳しいことは省略。もしも知らない人(興味のある人)がいたら、ちょっと足を運んで自分にながめて下さい。但し、ながめるというのは劇場を外からの意味、ナカまで入って舞台をどうぞとはいわない。

年越しそばを食べる時季になった。やれやれまた正月か、と思うのがホンネだけれど、エンギものを欠かさないのでが稼業人の心意気ということもある。そこで釜のなかでのそば屋の話。

生協すじ向いの横丁、入って左側のそば屋はとにかく良心的だな。

この店、ずっと前は銀座通り入口、入船温泉の向いにあり、それからセンターの東へ移り、次にいまの場所へきた。だんだん南へ引っこんだわけ。つゆの味は純関西的なうす味。そば自体はどうってことのない出来合いながら、おっちゃん、おばちゃん、あんまり釜ズレしてないところがいい。

年に一度だ高級でいけ！ といふ人には新世界の「更科」だろう。ここのつゆは濃厚な味、そばは自家製。

少し離れてはアベノ筋の裏、コーシン街道の「田舎そば」も本格高級派。

年越しそばを気張って、来年こそとカクゴをきめるってのも一つの考え方だ。

「なぜ、あいらんか」

前号の特集を読んだナカマの一

人が、あいらんは愛隣でなくて愛鈴ならいいんだといってきた。ハテ愛鈴とは？ わからないのでポカンとしていると「アホやなあ」と笑う。つまりその、サオ(その先端)だけを愛するのとちがって、うしろの鈴(二つある)までもオイシイワと味わってくれる、そしてこっちもオイシクさせてくれる、そんな特技の持ち主が昔のトビタにいて、二つ名前の通称愛リンの何とかわちゃんと有名だったという。鈴はなるほどリンでもあるが、ホントニホントの話かどうか。少しくサイけど紹介だけ。

改称して「動物園前一番街」となったトビタ本通りの記念行事は、暮れはまにあわないので新春二月にやるとのこと。もっとも、暮れにも改称PRのため、多少のことはあるらしい。